

シリーズ2、庭木に利用する樹種の特徴と管理 (1) -1987年から15年間の街路樹上位10種の変化-

日本樹木医会富山県支部
 樹木医 西村 正史

道路の両側には様々な街路樹が植えられています。これらの街路樹は、春になると徐々に葉が展開して薄緑色から緑色に変化し、春の訪れを知らせてくれます。また秋になると、徐々に黄葉し、今年のようにすばらしい黄葉を提供してくれます。このように街路樹は四季折々のすばらしさを提供するだけでなく、市街地の温度の上昇を抑えたり、二酸化炭素の固定に貢献したりして、温暖化防止にも貢献しています。

ところが、平成20年11月18日の北日本新聞に「プラタナス 主役降板」という大きな見出しで、街路樹の定番であるプラタナスは落ち葉が多く側溝を埋めてしまうことや害虫が付きやすいため住民から苦情が多いということで道路を管理する県や市町村から敬遠され、ハナミズキやヤマボウシが街路樹として植栽されていることが報道されていました。

そこで、街路樹の変遷を国土技術政策総合研究所が全国的規模で1987年から2002年まで5年ごとに調べた結果から、上位10種の樹木を全国レベルと我々に身近な北陸地域について紹介したいと思います。

全国レベルの変化を表-1に示します。特徴的なことは、①イチョウが1位をサクラ類が2位を占めていること、②順位が急上昇したのがハナミズキで、1992年の調査では10位までに入っていなかったのに、1997年では7位に、2002年では4位に上昇したこと、③特に下降したのが北日本新聞でも報道されたプラタナスであること、などです。

北陸地域の結果を表-2に示します。この地域の特徴は、上位2種がケヤキとイチョウで、前者が1位、後者が2位です。全国レベルでは3位につけていたケヤキが北陸では1位であることが特徴的です。図-1は富山市内の街路樹であり、この地域の1位と2位が街路樹になっています。ハナミズキとプラタナスは全国レベルと同じ傾向を示しています。

2002年の結果のみをみると、全国レベルでも北陸地域でも上位5種はイチョウ、サクラ類、ケヤキ、ハナミズキ、トウカエデで占められていることが共通しています。



図-1 富山市内の41号線の街路樹
 (左側：イチョウ、右：ケヤキ)

表-1 街路樹の上位10位までの樹種
 (全国レベル)

順位	1987	1992	1997	2002
1	イチョウ	イチョウ	イチョウ	イチョウ
2	サクラ類	サクラ類	サクラ類	サクラ類
3	プラタナス類	ケヤキ	ケヤキ	ケヤキ
4	トウカエデ	トウカエデ	トウカエデ	ハナミズキ
5	ケヤキ	プラタナス類	クスノキ	トウカエデ
6	カシ類	クスノキ	プラタナス類	クスノキ
7	クスノキ	ナカマド	ハナミズキ	プラタナス類
8	ナカマド	日本産カエデ	ナカマド	ナカマド
9	シダレヤナギ	モミジハフウ	シラカシ	サザンカ類
10	ニセアカシア	マゼバシ	日本産カエデ	モミジハフウ

表-2 街路樹の上位10位までの樹種
 (北陸地域)

順位	1987	1992	1997	2002
1	イチョウ	イチョウ	ケヤキ	ケヤキ
2	トウカエデ	ケヤキ	イチョウ	イチョウ
3	ケヤキ	サクラ類	アカマツ、クロマツ類	サクラ類
4	プラタナス類	アカマツ、クロマツ類	トウカエデ	ハナミズキ
5	サクラ類	トウカエデ	サクラ類	トウカエデ
6	ニセアカシア	モミジハフウ	ハナミズキ	アカマツ、クロマツ類
7	モミジハフウ	プラタナス類	プラタナス類	ユリノキ
8	シダレヤナギ	シダレヤナギ	ユリノキ	プラタナス類
9	ユリノキ	ユリノキ	ナカマド	モミジハフウ
10	カイズカイブキ	ニセアカシア	ヤナギ類	ヤマボウシ